

臨床研修 (視能訓練学)

研修内容

- 研修施設での対面研修またはオンラインでの研修が可能
- 研修施設での対面研修

研修内容	
弱視	<ul style="list-style-type: none"> ● 調節麻痺薬使用に関する注意点が理解でき説明できる ● 小児の視力検査が正確にできる (3歳以下 Teller acuity cards など) ○ 固視検査ができる (両眼性固視検査・偏心固視の状態を非散瞳下で実施できる) <ul style="list-style-type: none"> ○ 両眼性固視検査ができる ○ 偏心固視検査 (直像鏡) が日散瞳下で実施できる ○ 弱視の診断に必要な検査を選択し実施できる (微小斜視合併を含む) ● Problem List が作成できる ● 視能訓練 (視機能管理) 計画を立てることができる ● 視機能管理を行っていく上で各症例に応じた注意点を把握できる ● 視能訓練の効果を判定し、訓練計画の続行や見直しの判断ができる ○ 患児や家族と円滑なコミュニケーションができる ● 弱視治療に関する最新の情報について修得している ○ 不同視弱視、斜視弱視、微小斜視弱視、器質疾患+弱視の視能訓練を経験する
斜視	<p style="text-align: center;">間欠性外視</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発症確認を含め、視能訓練に必要な問診を実施できる ○ 入力系 (視力検査、屈折検査、調節検査)、統合系 (両眼視機能検査、抑制検査)、出力系 (定性検査、Patch test、PA 含む定量検査、斜位維持能力、輻湊検査、眼球運動検査、A-V pattern の検査) と必要な検査を選択し精度の高い検査を実施できる ○ 手術に必要な検査を選択し実施できる ○ 視能訓練の適応を判定し必要な検査を選択し実施できる ● Problem List が作成できる ● 視能訓練の適応が判断できる ● 視能訓練の計画を立てることができる ● 視能訓練を行っていく上で各症例に応じた注意点を把握している ● 視能訓練の効果を判定し、訓練計画の続行や見直しの判断ができる ○ 患児や家族と円滑なコミュニケーションができる ● 間欠性外斜視の最新の情報について修得している ○ 斜視視能訓練 (手術併用症例・視能訓練単独症例) を経験する <p style="text-align: center;">内斜視</p>

- 発症確認を含め、視能訓練に必要な問診を実施できる
- 調節麻痺薬使用に関する注意点が理解でき説明できる
- 内斜視のタイプ別病態を理解し診断に必要な検査の選択ができる
- ◎ 入力系（視力検査、屈折検査、調節検査、AC/A 比検査）、統合系（両眼視機能検査、網膜対応検査、抑制検査）、出力系（定性検査、定量検査、固視検査、眼球運動検査、A-V pattern の検査）と必要な検査を選択し精度の高い検査を実施できる
- ◎ 手術に必要な検査を選択し実施できる（複視や背理性複視を考慮できる）
- ◎ 視能訓練の適応を判定し必要な検査を選択し実施できる
- Problem List が作成できる
- 視能訓練（光学的視能矯正およびプリズム療法を含む）の適応が判断できる
- 視能訓練の計画を立てることができる
- 視能訓練を行っていく上で各症例時応じた注意点を把握している
- 視能訓練の効果を判定し、訓練計画の続行や見直しの判断ができる
- ◎ 患児や家族と円滑なコミュニケーションができる
- 内斜視の最新の情報について修得している
- ◎ 斜視視能訓練（手術症例）を経験する

後天性眼球運動障害（眼窩吹き抜け骨折・眼筋麻痺）

- 発症確認を含め、視能訓練に必要な問診を実施できる
- ◎ 入力系（視力検査、屈折検査、特に調節障害の有無について検査）、統合系（両眼単一視野検査、融像検査）、出力系（定性検査、定量検査、回旋検査、BHTT、輻湊検査、眼球運動検査、Hess 赤緑試験）と必要な検査を選択し精度の高い検査を実施できる
- 核上性眼球運動障害、核・核下性眼球運動障害、重症筋無力症、眼筋の異常による眼球運動障害、機械的障害の眼球運動障害を検査し評価できる
- 共同性斜視と非共同性斜視（神経眼科疾患）について理解し、神経眼科疾患に伴う眼球運動障害の鑑別診断に必要な検査の選択ができる
- ◎ 視能訓練の適応を判定し必要な検査を選択し実施できる
- Problem List が作成できる
- 視能訓練の適応が判断できる
- 視能訓練の計画を立てることができる
- 視能訓練を行っていく上で各症例に応じた注意点を把握している
- 視能訓練の効果を判定し、訓練計画の続行や見直しの判断ができる
- ◎ 円滑なコミュニケーションをとりながら社会復帰を含めた視能訓練の目標を明確に患者に説明することができる
- 後天眼球運動障害の最新の情報について修得している
- ◎ 斜視視能訓練（手術併用例を含む）を経験する

臨床研修施設基準（視能訓練学）

臨床研修施設基準

1. 専門視能訓練士が指導をすること
2. 弱視や斜視（神経眼科を有することが望ましい）の専門外来を有していること
3. 日本弱視斜視学会、小児眼科学会、神経眼科学会のいずれかの会員であり、なおかつ、眼科専門医を取得している医師1名以上がいること
4. 弱視は年間120例以上の症例の治療を行っていること
5. 斜視は年間60例以上の手術を実施していること
6. 斜視視能訓練（光学的視能矯正含む）を年間20例以上実施していること
7. 大学附属（付属）病院の眼科、総合病院の眼科であることが望ましい